

令和5年「マリンバイオテクノロジー学会 秋のシンポジウム」報告

2023年11月27日(月)16:00~18:00、マリンバイオテクノロジー学会若手の会主催の秋のシンポジウムを開催しました。北里大学薬学部2号館講義室を会場とし、On siteのみの開催としました。招待講演者を含め53名の方にご参加いただき、吉崎会長をはじめ、岡田副会長、鈴木副会長、渡部理事にもご参加いただきました。

本シンポジウムは、副題を「マリンバイオ研究の出口を探る!」とし、現代の研究者が直面する出口戦略の課題と可能性を探る場として企画されました。生物資源を活用した革新的な研究や開発が進む中、その成果をどのように社会に還元し、事業化するかは大きな関心事です。「カニ殻由来の新素材「キチンナノファイバー」多様な生理機能と実用化への道のり」と題して(株)マリンナノファイバーの伊福伸介先生に、「スタートアップの始め方」と題してPRD Therapeutics(株)の細田莞爾先生に、「養殖魚で“GOOD FOODS for YOU!”」と題して(株)ニッスイの塩谷格様に、ベンチャー・スタートアップ企業を立ち上げた経験や知見、企業の研究所長に開発方針についてご講演いただきました。各企業の商材が機能性材料・医薬・食品と多岐に渡り、さらにその開発ステージも異なっており、まさにマリンバイオテクノロジー学会ならではの幅の広さを感じさせるものでした。次世代を担う若手研究者や技術者たちが、自らの研究や事業活動に対する新しい視点やヒントを得る機会となり、さらにキャリア形成やビジネスの方向性を考える契機となったのではないかと考えています。Zoom webinarとのハイブリッド開催と比較すると参加者人数が減ってしまったものの、演者の研究開発への熱量を感じることができました。さらに、参加者への問いかけを交えながらのご講演は、より多くの興味を聴講者に与えたと確信しています。



講演会の様子：北里大学薬学部2号館講義室

講演会后、同大学の食堂にて意見交換会も実施しました。意見交換会にも、講演者3名を含む計42名の方に参加いただきました。学生にも多く参加いただきました。Covid-19拡大以降、異なる大学に所属する教員・学生間の交流の機会が激減してしまったと思います。On siteのみでの開催とすることで、その機会を参加者の皆様に提供出来、改めて対面での交流会の良さを共有できたと感じています。

最後に、本講演の開催に際して、ジーエルサイエンス株式会社様、日本電子株式会社(JEOL)様、株式会社島津製作所様にご協賛いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

(企画責任者 北里大学 小林啓介・安元剛、(株)ニッスイ 関口峻允)